

次期ごみ処理施設整備事業に関するサウンディング調査結果の概要

1 調査の趣旨

小牧市及び岩倉市の一般廃棄物処理を担う小牧岩倉エコルセンターは、建設同意協定により稼働期間が令和21年度までと定められており、次期ごみ処理施設の方針決定時期が近づきつつあります。

愛知県の「ごみ処理広域化・集約化計画」では、尾張北部ブロックの第1小ブロック（犬山市、江南市、大口町、扶桑町）と第2小ブロック（小牧市、岩倉市）の施設を集約し、4市2町による広域的な処理体制の構築を目指すこととされているところです。しかし、小牧岩倉エコルセンターと現在建設が進められている第1小ブロック施設（尾張北部環境組合施設）とでは稼動開始年に13年の開きがあり、次期での施設統合の実現は困難な状況であるため、小牧岩倉衛生組合としては小牧岩倉地域単独での施設更新について検討を進めています。

単独更新の場合、施設規模が小さくなり、建設費や維持管理費の増加、さらには将来的な専門人材確保の困難さが課題となるといった課題を踏まえ、公民連携手法等を活用した効率的な施設整備・運営の可能性を検討するため、民間事業者から幅広く意見や提案を求めるサウンディング調査を実施したものです。

2 サウンディング調査実施スケジュール

実施要領の公表、募集開始	令和7年 9月26日
参加申し込み	令和7年 9月26日から 令和7年11月17日まで
対話の実施	令和7年12月 1日

3 サウンディング調査の参加者

対話参加事業者数 4社

4 サウンディング調査結果の概要

(1) 公民連携手法等による施設整備や運営について

①公民連携を基本とする提案

一般廃棄物と産業廃棄物の混焼、域外からのごみ受入れ、乾式メタン

発酵＋焼却の組合せ等、民間の創意工夫やノウハウを活かせる民設民営方式（PFI〔B00〕・公民連携）を基本とする提案が3件。

②生ごみ分別と既存の湿式メタン発酵施設を活用し、焼却施設規模の縮小やリサイクル率向上を図る提案が1件。

③既存のエコルセンターを、基幹的設備改良と長期包括運営を一体で実施するDBO方式により延命化を図る提案が1件。

(2) 建設用地条件

- ・敷地面積：概ね2.0～3.5ha
- ・用途：各社とも工業用地が望ましいとの見解で概ね一致。

(3) 将来的な広域化を見据えた対応案

①将来的な4市2町による一般廃棄物の集約処理の受け皿として400t／日の焼却施設を整備し、集約化までの間は産業廃棄物や域外一般ごみを受け入れることで処理量の確保を図る考え方が1件。

②民設民営方式を前提に施設を整備し、尾張北部環境組合施設の稼働期間に合わせて事業期間の調整を図る考え方が1件。

③尾張北部環境組合施設の稼働期間を踏まえ、既存のエコルセンターを長期間延命することで更新時期の調整を図る考え方が1件。

5 今後の方針

本サウンディング調査の結果を踏まえ、来年度より次期ごみ処理施設整備事業に係る基本構想の策定に着手し、計画条件の整理、事業方式の比較検討、建設候補地の抽出及び比較検討等を進めてまいります。